

Jun Kamiwazumi

能登町テニスのDNAを受け継いだ 最高のプレーヤー「神和住純」

今年で7回目を迎えた「神和住純エンジョイテニスフェスティバル」が10月6・7日、健民テニスコートで開催された。大会では県内外から訪れた約100人がプロとの交流や試合を楽しみ、レセプションでは能登町の味覚を満喫した。

今回、来町した神和住さんに能登町への思いやテニスのまじぶくりについて話を伺った。

Q 能登町との縁は？

A わたしの父である正が宇出津、母が旧鹿島町の出身であることから、子どものころはたまに帰って故郷の空気に触れていましたしキリコにも乗ったことがあります。神和住という地名もありますが元々は神和住の出身で自分のルーツを調べたことでもあります。

父からは宇出津小学校で先生たちに教えられてテニスをしてきたことや、宇出津の港からラケットを振りながら出征して

いった話などを聞かされてきました。また不思議な縁を感じたのが、わたしが進学した法政大学のテニス部コーチが松本武雄という穴水町出身の人で、父親の小学校時代のライバルだったということなんです。

Q 硬式に転向した理由は？

A 両親共に軟式でしたから中学では軟式テニスをしていて東京都で3位くらいになりました。高校進学時に「硬式で強くなれば世界に行ける」と思い、強かった法政二高に入ることを決めたのです。今は4歳くらいで始めてジュニアでプロになる時代、15歳から始めてプロになった選手はほかにいないですね。

Q 硬式と軟式の違いは？

A グリップから何から全然違いました。だから第1球目から直されましたね。それで2年半でインターハイ優勝ですから、もう半端じゃないくらい練習しま

した。それくらいしないと全国制覇できませんから。その後大卒までの7年間、ずっと自分の青春はテニスコートの中で過ごし、そこで鍛えられましたね。

Q テニスの町について

A わたしの父親の時代から小学生に軟式テニスを教えていたこと、町民みんながテニスを楽しんできた文化があること、そしてこれだけの施設があるということはずいぶんすごいですよね。町のPRをしていく中で「テニス」というものが大きな柱になると思います。

Q エンジョイテニスについて

A わたしたちプロは勝負の世界で生きてきて試合を楽しむというところは経験したことがないわけですけど、この大会は負けてもいい。負けたら悔しいですけど相手も同じ条件ですし、来てもらった人を楽しんでもらえればいいという大会。わたし自身

も毎年楽しみにしています。

Q テニス資料の寄贈について

A ここにテニス資料館があることは知っていました。担当の方から資料を寄贈してほしいという話があって、父の資料を故郷に飾ってもらえれば父も喜ぶだろうし、自分の資料も町に引き取ってもらえることはすごくうれしいことでした。能登出身の人間として、活躍したことが少しでも刺激になってもらえればと思っています。

Q テニスのまじぶくりについて

A わたしが協力できることとしては、前から話がありましたけど選手の育成に一役買いたいということがひとつ。そしてテニス



藤波緑地センター内に展示された神和住さん寄贈のテニス資料

テニスの土壌があること
すばらしい施設があること
国際大会が開催できること
すべて『誇り』に思っています。

【かみわづみ・じゅん】

高校で硬式テニスに転向し、インターハイ完全優勝、インカレ3連勝、全日本選手権3連勝を飾るなど日本のトッププレーヤーとして活躍。1973年に日本テニス史上初のプロ選手となる。世界4大大会に出場し、当時世界1位のスタン・スミスを全仏・全米プロで2度破る。1986年に現役を引退、プロ・アマを含めた通算優勝回数は115回を数える。

現在は母校である法政大学教授を務める。東京在住、60歳。